



### ・地域が支え、育てる子ども支援連絡協議会

11月8日（火）大槌町コミュニティ・スクール「第2回子ども支援連絡協議会」が開催されました。

夏休みの子どもの居場所・体験活動を振り返り、冬休みの計画について、情報交換をしながら、横の連携を広げました。さらに、グループ協議では、「子ども主体の活動の充実」の実現に向けてできることについて考えました。「竹竿づくりから挑戦する釣り大会」「親子で一緒に凧揚げ大会」「学年縦割り班での海岸清掃・環境整備作業」「子ども支援団体合同での活動成果発表会の開催」等、様々なアイデアが提案され、子どもたちが自走するための足場づくりを保護者や支援者がどのように行うのかを考えていくことが、「子ども主体の活動の充実」のポイントになると感じました。



夏休み はがき作りの活動

最後に、南S SWから、震災後から現在までの本町での各団体等による子どもたちへの支援を通して、学校生活になかなか馴染めなかった子どもが、支援者との関わりの中で自分の強みを発見し、進学後も自信をもって挑戦、活躍する姿が見られるようになった事例が紹介されました。これまでも献身的に子どもたちをご指導いただいている学校の先生方と、「ナナメの関係」にある地域の支援者が一体となって、子どもたちの育ちを支えていくことの大切さを再確認することができました。

### ・先進地から学ぶ②

豊能町では、これまで本町の小中一貫教育の立ち上げからご指導いただいていた、森田雅彦教育長様や東能勢小中学校の管理職の皆様よりお話しいただきました。

○東能勢小中学校の特色や小中一貫教育の効果

・4-3-2制で、1～4年生は旧東能勢小学校で、5～9年生は旧東能勢中学校の校舎で学習している。

⇒4年生が6年生のようなリーダーシップを発揮している。また、5、6年生に課題があったが、7～9年生と生活を共にすることで、非常に落ち着いた。

・ローテーション道徳を実施している。（担任、担任外、管理職、養護教諭）

・5、6年生は教科担任制を実施する。

⇒子どもたちの様子を複数の教員が共有できるので、先生方がチームで子どもたちを育てる意識が醸成されている。

⇒先生方にゆとりが生まれ、休み時間等に一緒に遊ぶ様子が見られるようになった。

・運動会は全校で行う。就学前の子どもたちも参加

⇒就学前の子どもたちから9年生までが一緒に運動会に参加したことで、教職員の充実感と保護者や地域の安心感につながった。

●課題

・全ての教科を埋める人員の配置ができていない。

⇒小中両方の免許を持っている教員の配置が必要である。



5～9年生が学ぶ旧東能勢中学校校舎

東能勢小中学校は、  
今年度、小中一貫校として  
開校したんだよ

